

○ 具体的使途(経費内訳)

表1. 実装計画に係る事業経費内訳

交付対象事業費(千円)			23,540
経費項目	数量	期間	金額(単位:千円)
遠隔監視操作制御設備(親局)	1,444千円×1基	令和7年7月～令和8年1月	1,444
遠隔監視操作制御設備(子局)	1,001.5千円×4箇所	令和7年7月～令和8年1月	4,006
遠隔監視操作制御システムソフトウェア	5,639千円×1基	令和7年7月～令和8年1月	5,639
遠隔監視システム設置(子局)	1,119.25千円×4箇所	令和7年7月～令和8年1月	4,477
電波式水位計	750千円×1箇所	令和7年7月～令和8年1月	750
遠隔操作制御システム設置(親局)	1,612千円×1基	令和7年7月～令和8年1月	1,612
遠隔操作制御システム設置(子局)	1,403千円×4箇所	令和7年7月～令和8年1月	5,612

○ 効果検証の結果

表2. KPI達成状況

No.	KPI		2025年度末	2026年度末	2027年度末
①	遠隔操作制御システムの運用件数	目標値	24	48	72
		実績値	1	—	—
②	浸水(冠水)被害件数の減少	目標値	10	7	5
		実績値	0	—	—
③	ホームページへのアクセス回数	目標値	100	200	400
		実績値	111	—	—

① 未達成

2026年2月に実装し、運用に充てる期間が短く2025年度はシステムを実装するに止まってしまったため。2026年度のKPI達成に向けて、月平均4件以上運用するためには、出水期の台風や豪雨等の緊急時だけでなく、通常時の適切な用水路の管理における運用が必要なため、農業用水路を所管する産業振興課と3か月に1回の頻度で調整会議を開き運用件数を増やす。

② 達成

2026年2月に実装し、運用に充てる期間が短く2025年度はシステムを実装するに止まってしまったことから、システム運用ではなく令和7年度は基準となる令和6年度に比べ短時間集中豪雨等の天候的な要素が大きく件数減少に寄与したため。導入した遠隔監視操作制御システムを活用し、用水路を適切に管理していくが、台風や豪雨等の緊急時の運用が重要であると考えていることから、システム管理と合わせ水門等の施設整備を実施し確実に運用できる体制を常時整える。

③ 達成

町公式ホームページにて、工事管理課が管理する「工事管理課からのお知らせ」と地域防災課が管理する「防災・災害・防犯情報」の災害等発生情報のページから水門監視カメラの動画配信の外部リンクページを紹介し、広く町民への周知を行った。